

題 言

DER BAU の創刊

工事畫報第百號記念事業の第二として、英語建築雑誌の一號が愈々九月一日を以て發行された。爰に謹んで、我社の事業を後援指導して下さつた先輩各位に對し滿腔の感謝を表する次第である。

○

DER BAUは、菊判40頁、定價十五錢の小雑誌であるが、歐米新鋭建築の寫眞及圖の別刷光澤紙頁もあり、其他寫眞及圖等豊富に取入れ、歐米の一流建築の最新知識を適當に集め、然も譯註は Civil と同様に親切丁寧を極めたものである。

七月一日に發行せる PRACTICAL CIVIL ENGINEERING の姉妹雑誌として、兩々相俟つて、我が技術雑誌界に出現した二つの明星である。

新雑誌『土木工學』

近く同業、工業雜誌社から創刊されんとする新雑誌は土木工學と命ぜられ東京に於ける中堅土木技術家多數を編輯委員として今日の時勢に適する内容を以て生れ出でんとする様である。

○

世界の經濟界は全然行詰つてゐるが、學界も又行詰つた觀がある、特に我が土木工學社會に於て其感が深い。此際に新に出る雑誌に對しては、けだし何人も多大の期待をかけて、其發行を祝福するに吝ではなからう。我等も双手を舉げて養成し度い。然し80頁の雑誌に定價五十錢と決められたのは、今日の時世に適さない様である。五十錢雑誌は好景氣時代の事で、過去の夢である。今日は世界的に最底のレベルから堅固なる國民生活の基礎を固めなければならぬ時である。決して外觀や體裁に囚はれてゐる時ではない。五十錢雑誌には既に『工學』あり『エンヂニヤール』あり『シビル』等があり、其他に内務省道の路の改良』と『水理と土木』等がある。

○

我々は理想としては從來の各五十錢雑誌を全部合併統一して、月二回發行一冊二十五錢として全讀者を纏めたならば、寧ろ充實した立派なものが出来、多數讀者の爲にも最も好都合であると思つてゐた。

經營上に就いても各社が分立してゐるよりも寧ろ有利であると思つてゐた。然るに其合併統一も行はれずして、又新に土木雑誌が出来るとすれば、定價は三十錢にして貰ひ度い。而して多數の讀者を抱擁して貰ひ度い。アメリカの土木雑誌エンヂニヤール・ニューズレコード誌などは一昨年まで三萬二千部も發行し、然も週刊である。近頃の不景氣でも二萬部は保つてゐるらしい。専門雑誌も二萬以上出ると内容も充實したものが出来るが、日本の土木雑誌などでは現在三千部位が由で、最近我社で出版した CIVIL I などが大部數のレコードをなすにすぎない。

○

我が工事畫報なども特種雑誌とは云へ定價七十錢は決して我等の本意ではない、近く時勢に適する一大改革を加へ度いと思つてゐる。

二氏の動向

佐野利器博士は今回清水組副社長の職を辭し、専ら日本大學工學部長として私學の爲に盡さるゝ事となつた。

博士は先年澁澤老子爵の懇請により、帝大建築學教室を去つて清水組に入り、業界の將來は爲に明朝なる希望に輝いたのである。僅に一年餘ではあつたが博士は其處に大なる經驗を得て、再び世界學界の爲に盡力せらるゝ事になつたのは、時節柄重大なる意義が存するものと思はれる。

○

海軍省 建築局長眞島健次郎博士は今回停年の故を以て職を辭された。博士が我が土木建築學界及工事技術界に貢獻せられた處大なるものがあり、今日の引退はまことに惜別の情にたへないものがある。

○

我等は我等の事業に就て常に多大の後援を與へられつゝある以上三先輩の爲に其の御健康を祝福するものである。